

救援・復興県民会議だより

発行 東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議

No. 1 1

盛岡市本町通2-1-36

浅沼ビル4F

電話・FAX(兼)

019-601-5133

ホームページ

[http://www1.ocn.ne.jp/~](http://www1.ocn.ne.jp/~fukkougk/index.html)

[fukkougk/index.html](http://www1.ocn.ne.jp/~fukkougk/index.html)

— 救援・復興岩手県民会議第2回総会開催 — 被災者が主人公の復興めざし 「復興一揆」へ

8月18日、記念フォーラム終了後に東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議（救援・復興県民会議）の第2回総会（拡大世話人会議）を、代表世話人（欠席2）、常任世話人（欠席1）、世話人（加入する団体代表など）、また、地域組織として大船渡市政とくらしを良くする会、大震災被災者支援両磐連絡会の代表など約40人が出席をして開催されました。

鈴木露通事務局長の開会に続き、中村健いわて労連事務局長を議長に選出し、出席した5人の代表世話人を代表して東幹夫代表世話人が挨拶をしました。中村議長が総会に寄せられた「全国災対連」からのメッセージを紹介しました。

鈴木事務局長が、昨年7月9日に結成総会を開催して以降の経過報告と次年度の活動方針案、2012年度決算報告および2013年度予算案を提案しました。経過報告では、結成総会を受けて県民会議としての活動に関わる議論を行い、被災者に寄り添う復興をめざすために、「医＝医療・福祉」「職＝仕事・生業」「住＝住まい・まちづくり」「学＝教育」に係わる取り組みを進めることを確認したこと（後に「通＝公共通」を追加）、「3・11を忘れない」として3月11日前後に県民集会



を開催すること（「東日本大震災津波1年県民集会」を3月4日に開催）などを報告。復興の現状と課題については前段に

行われたフォーラムでの報告・発言等から割愛した上で、次年度の活動方針では、4つの基本的な活動の柱【1つは「復興一揆プロジェクト」取り組み：2つは前述の5つの分野における要求実現



代表世話人を代表して東幹夫代表世話人が挨拶

の取り組みと東電などへの賠償請求、原発依存社会からの脱却、再生可能エネルギーへの転換をめざす諸団体との共同：3つは県民会議からの情報発信、2年目の県民集会の開催：4つは県民会議の「よびかけ」や目的にもとづく取り組み】を提案。その具体的な活動内容で、「復興一揆プロジェクト」について、被災者向けの要求アンケート活動、「要求と政策」への賛同運動を「小〇」の大旗を掲げながら行進しながら行うという内容を示しました。9月県議会を前に、加入団体等からの県への要請項目を集約して県知事要請を行う、来年3月（9日または2日）に「東日本大震災津波2年県民集会」を開催するなどを提案しました。

議案提案後に、下机登美子会計監事が決算報告に関わって会計監査報告を行いました。

「3・11を忘れない、被災地から発信を」 「被災者本位の復興のためには自らが行動」 「よりよい復興が重要だ、世直し的な一揆」

討論では、国や県の復興に関しての取り組みや現状について、県民会議としてその分析評価をどのように



考えているのか。
「復興一揆」とい
うが、イメージが
わからないとの意見
が出されました。
これに対して、鈴



木事務局長は、被災三県における復興の取り組み
から見て、福島県では原発事故の早期収束と賠償
問題が焦点となった取り組みをすすめており、宮
城県との比較からすると岩手における取り組みは
被災自治体や被災者の声が一定反映をしている。
しかし、「創造的復興」という宮城県の復興計画に
見られるような露骨な財界・大企業の進出という
状況とは言えないまでも、県内においても三陸縦貫
道や湾口防波堤など大企業による大型公共事業へ
と流れが強まっていると答えました。また、「復興
一揆」については、総会までに常任世話人会等で
議論を重ねてきた経緯を紹介し、東日本大震災に
ついて何か終わったのではないかという状況が感
じられる、しかし、被災者には「3・11を忘れ
ないでほしい」という切実な声がある。こうした
声にもとづいて先人のたたかい（三閉伊一揆）の
教訓を生かし、一揆（住民総ぐるみ運動）に取
り組むことにしたと答えました。

「復興一揆」に関して、佐々木良博代表世話
人は、被災者本位の復興をめざすというが、そも
そも被災者自らが声を上げ、行動していくことが
求められている、また、加藤善正代表世話人は、
復興はより良い復興でなければならない、そう
いう意味では世直し的な一揆というものと考え
て話しました。提案された議案は全体の拍手で採
択されました。

新年度役員選出では、代表世話人は留任、常
任世話人に新たに2団体（新建築家技術者集団
岩手支部、岩手県生活と健康を守る会連合会）
を加えること、会計監事は留任という提案が
され、全体の拍手で承認されました。

（新年度役員体制は、別記に記載）



総会は、最後に渡辺
喜代子代表世話人が閉
会挨拶を述べて終わ
りました。

なお、記念フォー
ラムおよび第2回総会に

参加した8人から年会費を頂きました。

第2回総会（拡大世話人会議）で選出された役員

1. 代表世話人（アイウエオ順で紹介します）

東 幹夫 氏（日本科学者会議岩手支部代表幹事）
加藤 善正氏（岩手県生活協同組合連合会会長理事）
佐々木良博氏（自由法曹団岩手支部事務局長）
新沼 治 氏（大船渡漁協理事、大船渡民商会長）
箱石 勝見 氏（岩手県保険医協会会長）
前川 慧一 氏（東日本大震災被災者の生活再建めざす
釜石・大槌の会、釜石革新懇事務局長）
渡辺喜代子氏（岩手県母親大会連絡会会長）

2. 常任世話人（アイウエオ順で紹介します）

尾形 文智 氏（岩手民医連会長）
加藤 辰男 氏（岩手県革新懇代表世話人代行）
金野 耕治 氏（いわて労連副議長）
久保田彰孝 氏（岩手県農民連会長）
斉藤 信 氏（日本共産党県議）
佐藤 一則 氏（岩手自治労連委員長）
渋谷 靖子 氏（新婦人の会県本部会長）
鈴木 露通 氏（いわて労連議長） 事務局長兼務
中野るみ子 氏（岩手民医連委員長）
藤沢 光一 氏（岩商連会長）
小笠原浩次 氏（新建築家技術者集団岩手支部長） 新
渡辺 勇一 氏（岩手県生活と健康を守る連合会） 新

（尚、上記の氏名は、8月18日現在です）

3. 世話人（加入団体数30団体）

加入団体（上記団体以外）代表
地域組織（以下の2団体）代表
大船渡市政と暮らしを良くする会
大震災被災者支援両磐連絡会

※個人加入（14氏）

4. 会計監事

下机都美子 氏（岩商連事務局次長）
吉田 博 氏（岩手民医連事務局長）

